

2020 年度 授業概要

科目名	理学療法技術論Ⅱ			授業の種類	演習	講師名	必修・選択	
授業回数	30回	時間数	60時間 (2単位)	配当学年・時期	理学療法士科3年	後期	必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕								
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場で片麻痺患者を担当したときに、自信を持って理学療法が行えるようにイメージを形成します。 ・中枢疾患の理学療法の中で、失調症とパーキンソン病の病態の特徴をとらえ、治療に結びつけることと、臨床でよく経験する協調運動障害に対する病態の学習と、理学療法の展開を学習する機会とする。 								
〔授業全体の内容の概要〕								
<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中片麻痺の急性期、回復期に焦点を絞って講義します。症状は多種多様であるため、スライドやビデオを多用するとともに、多くの臨床所見を提示しながら片麻痺の理学療法を理解していきます。 ・パーキンソン病のグレード別の進行にあわせた理学療法の展開を学ぶ。また、失調症の特徴や理学療法の方法を学ぶ。 								
〔講師の実務経験〕								
(医) マックシール 異病院にて7年間理学療法士として勤務。急性期、回復期、訪問リハまで経験している。								
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕								
<ul style="list-style-type: none"> ・症状・障害を理解し、リスク管理を行いながら評価から治療までの一連のプロセスを実施できるようになる。 ・パーキンソン病のグレード別の進行にあわせた理学療法のプログラムの立て方と目標設定や治療方法を知る。また、失調症の特徴と治療の展開方法を学ぶ。 								
回数	講義内容							
1	概論Ⅰ【①水田】							
2	概論Ⅱ							
3	脳の機能解剖							
4	画像所見のみかた、予後予測							
5	症状Ⅰ(運動機能障害)							
6	症状Ⅱ(高次機能障害)							
7	機能評価法							
8	姿勢、動作観察・分析演習Ⅰ(臥位、座位、立位)							
9	姿勢、動作観察・分析演習Ⅱ(立ち上がり、歩行)							
10	急性期の理学療法、リスク管理							
11	回復期の理学療法、姿勢制御実技							
12	評価・治療実技							
13	評価・治療実技							
14	評価・治療実技							
15	評価・治療実技							
16	小脳性協調運動障害【②岡田】							
17	脳幹病変に伴う協調運動障害							
18	視床病変に伴う協調性運動障害							
19	失調症状の患者の評価と治療							
20	パーキンソン病							
21	パーキンソン病							
22	パーキンソン病							
23	パーキンソン病患者の評価と治療							
24	脊髄疾患の病態【②林】							
25	脊髄疾患の障害							
26	脊髄疾患の評価							
27	脊髄疾患の評価							
28	脊髄疾患の治療							
29	脊髄疾患の治療							
30	脊髄疾患の治療							
	定期筆記試験							
【 準備学習・時間外学習 】								
【 使用テキスト 】								
書籍名			著者名			出版社		
標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学			福井 園彦の他			医歯薬出版社		
病気が見えるVOL.7脳・神経			福井 園彦の他			医歯薬出版社		
【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】								
筆記試験(期末試験と授業中盤での小テスト)								